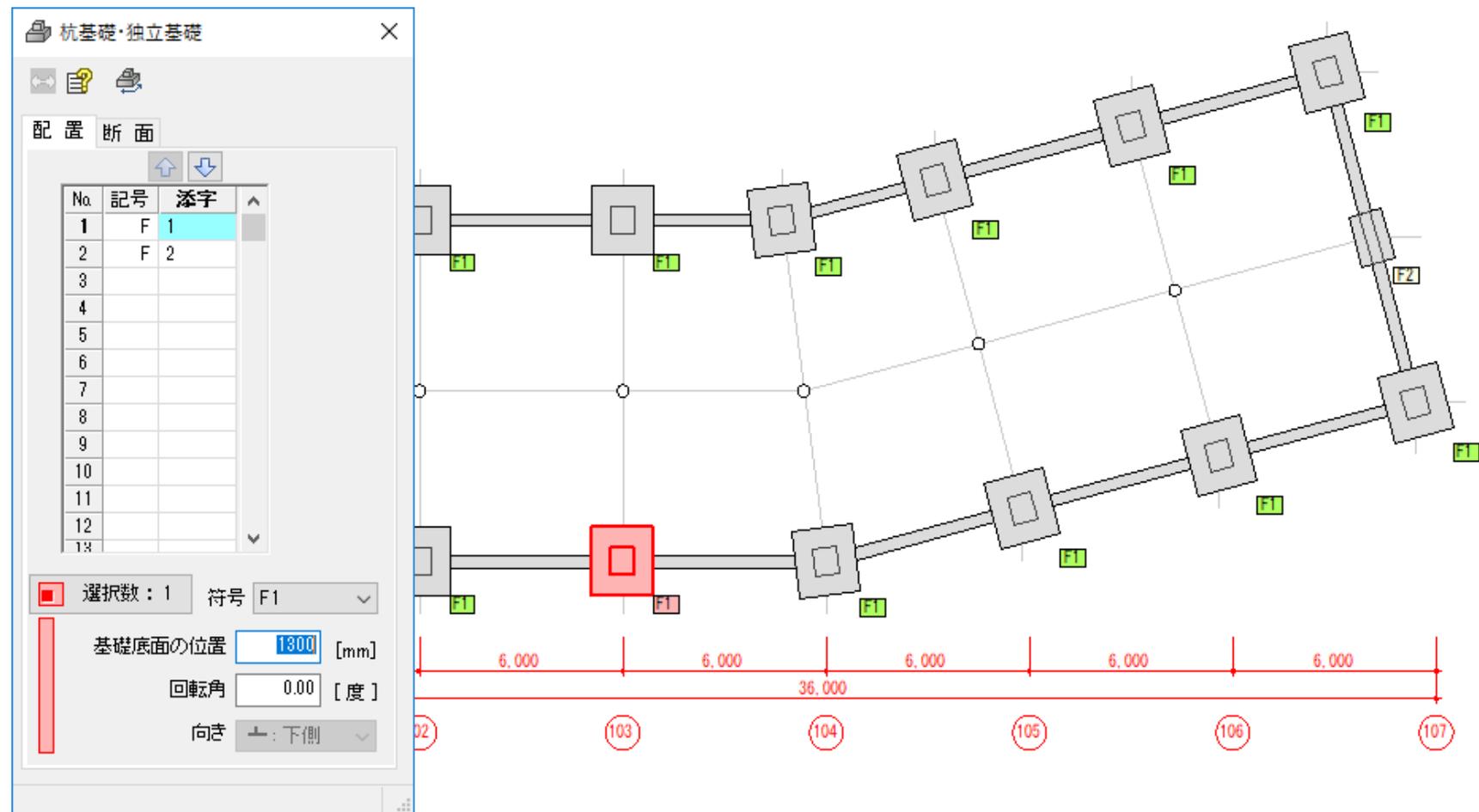


13.2.杭基礎・独立基礎-配置

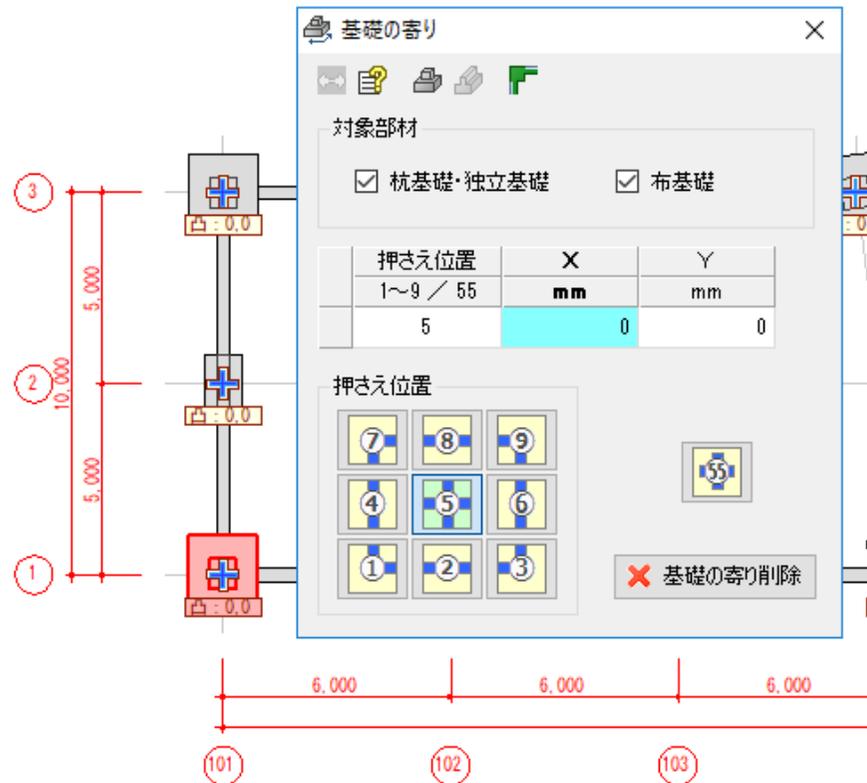


基礎は接地する節点位置に配置できます。
支点がある箇所には、基礎を配置する必要があります。

13.5.基礎の寄り

[基礎の寄り]

寄りを指定する基礎を選択し、押さえ位置と寄り寸法を入力します。



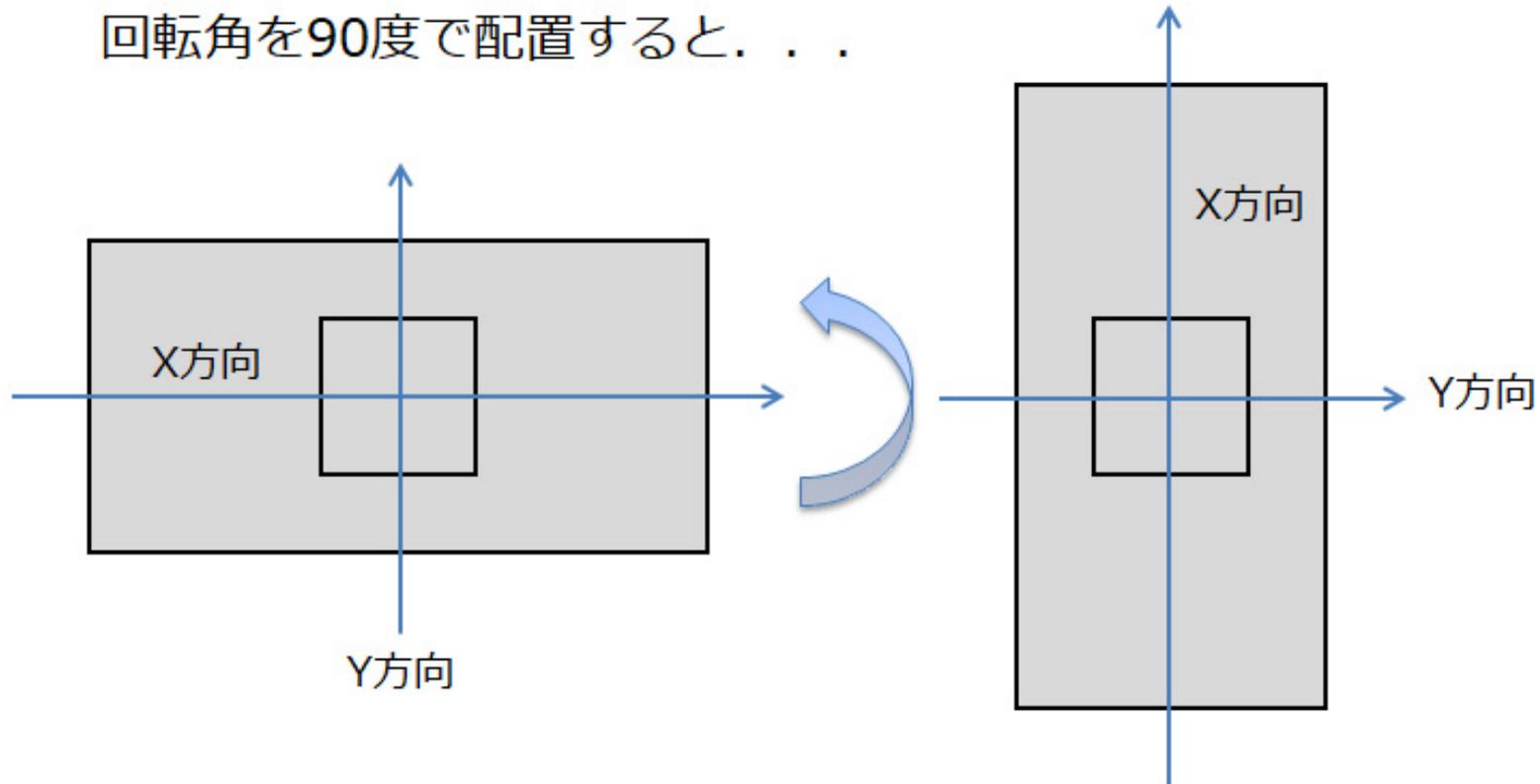
柱心と基礎心とのずれが、偏心距離となります。指定がない場合は、柱心と基礎心が一致します。

押さえ位置①から⑨と寄り寸法は通り心を基準としています。

柱心を基準として寄り寸法を入力する場合は、押さえ位置を ⑤⑤ とします。

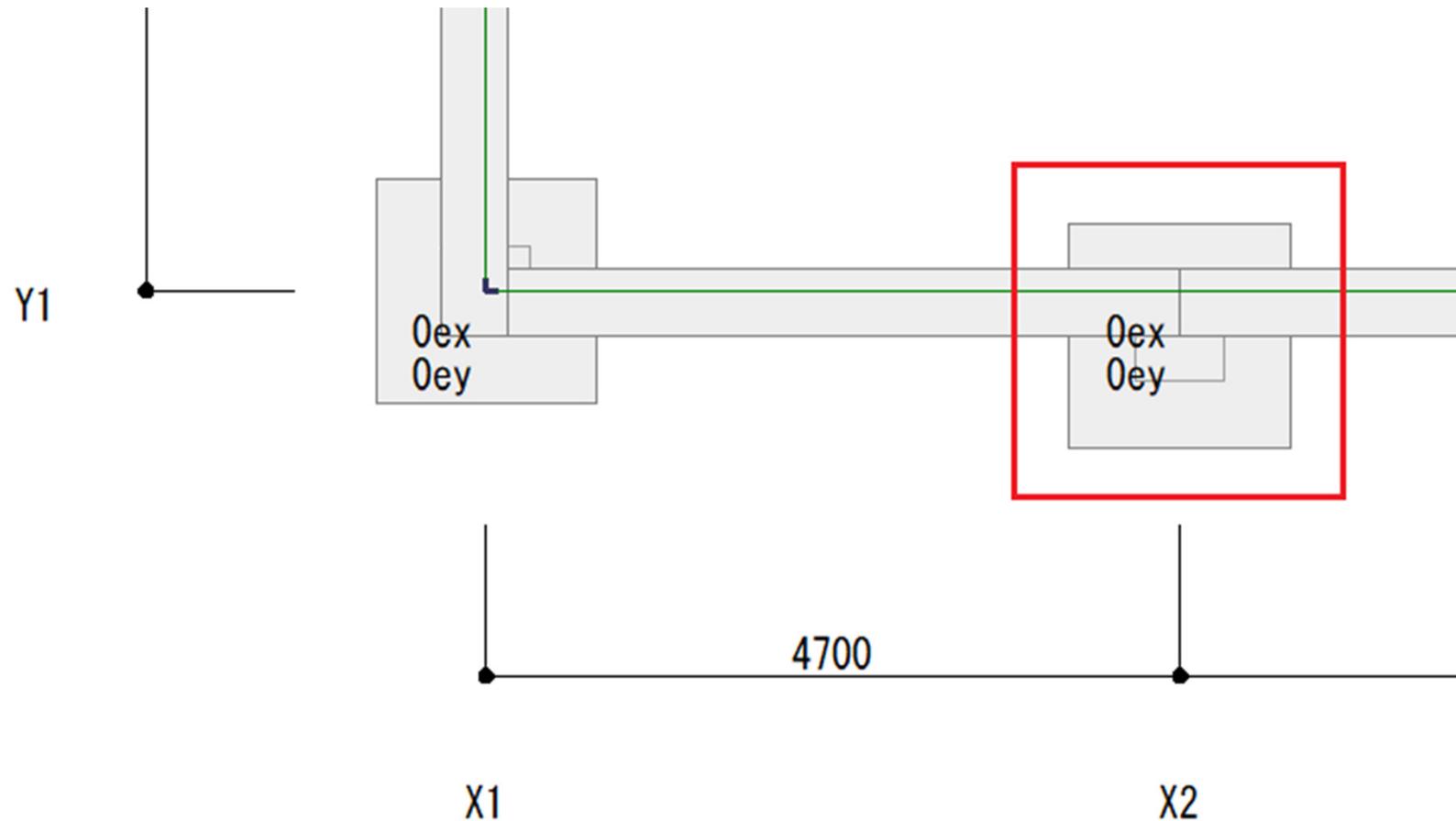
13.2.杭基礎・独立基礎-配置

回転角を90度で配置すると...



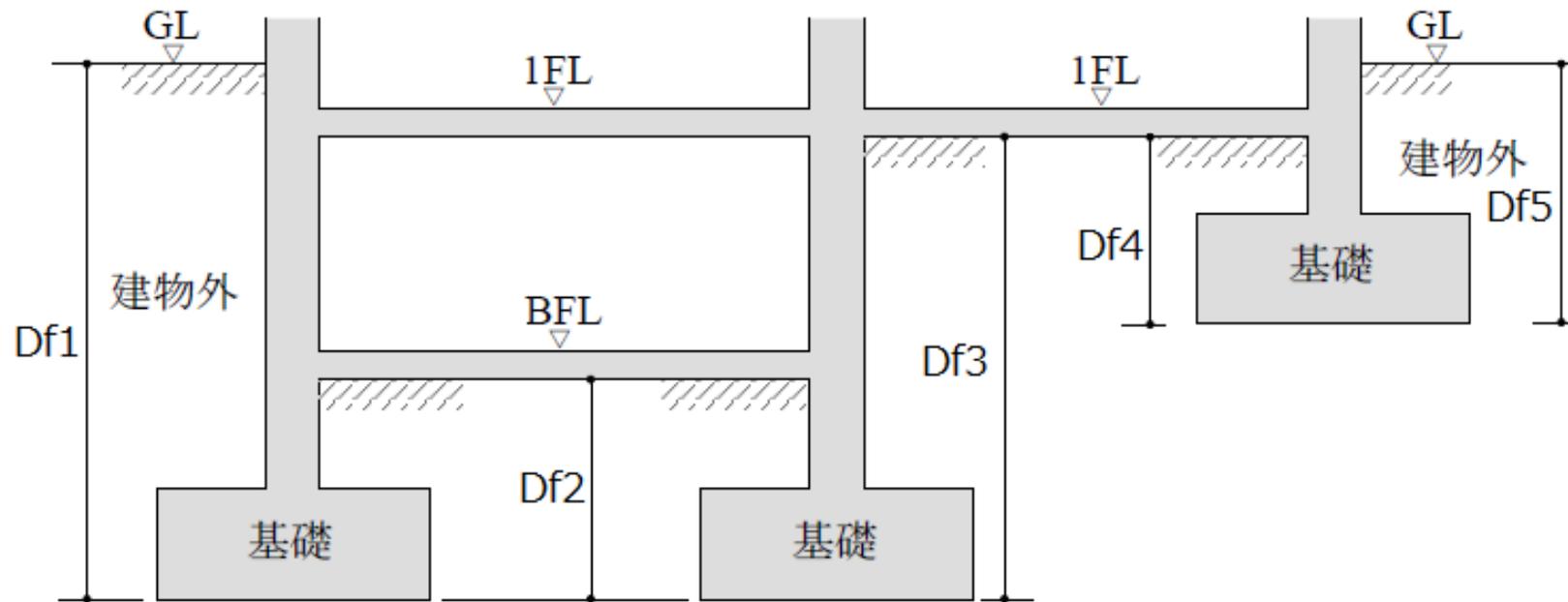
X方向とY方向は入れ替わらないため、断面図と結果の向きが一致しません。
LxとLyを入れ替えて別登録した基礎を配置してください。

13.5.基礎の寄り



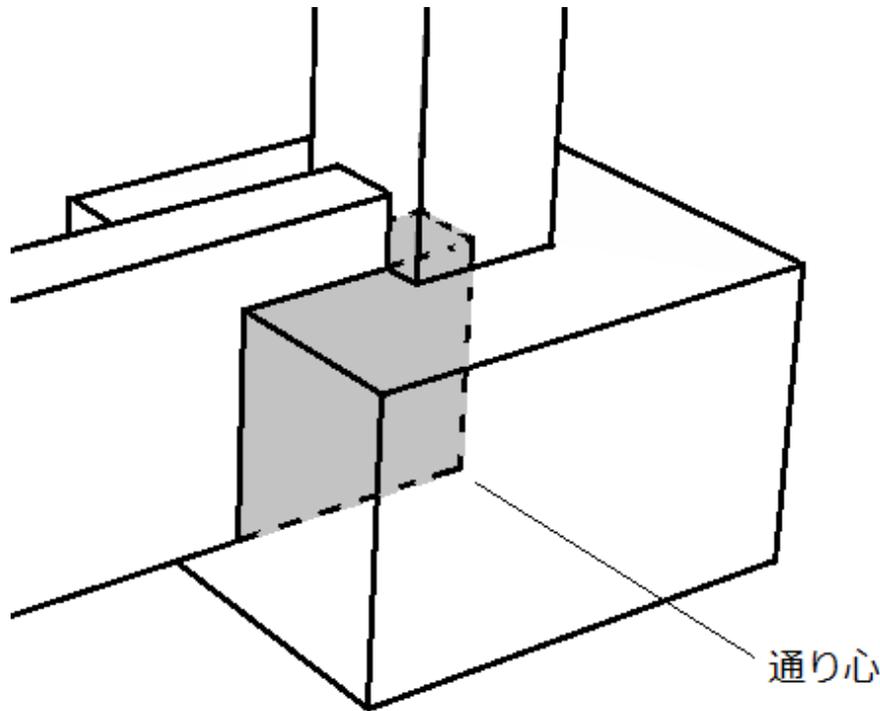
柱心と基礎心とのずれが偏心距離となるのですが、直上階に柱が配置されていない場合、通り心と基礎心とのずれが偏心距離となります（ダミー柱も同様）。構造心とのズレ、柱の寄りがあると、平面図がずれて作図されます。

1.基本事項－5.基礎自重の扱い

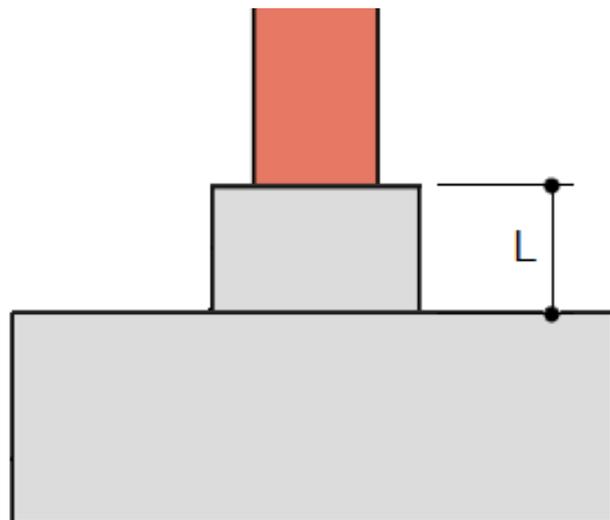


部分地下形状においても、スラブの位置を考慮して根入れ深さ（Df）を使い分けています。

1.基本事項－5.基礎自重の扱い

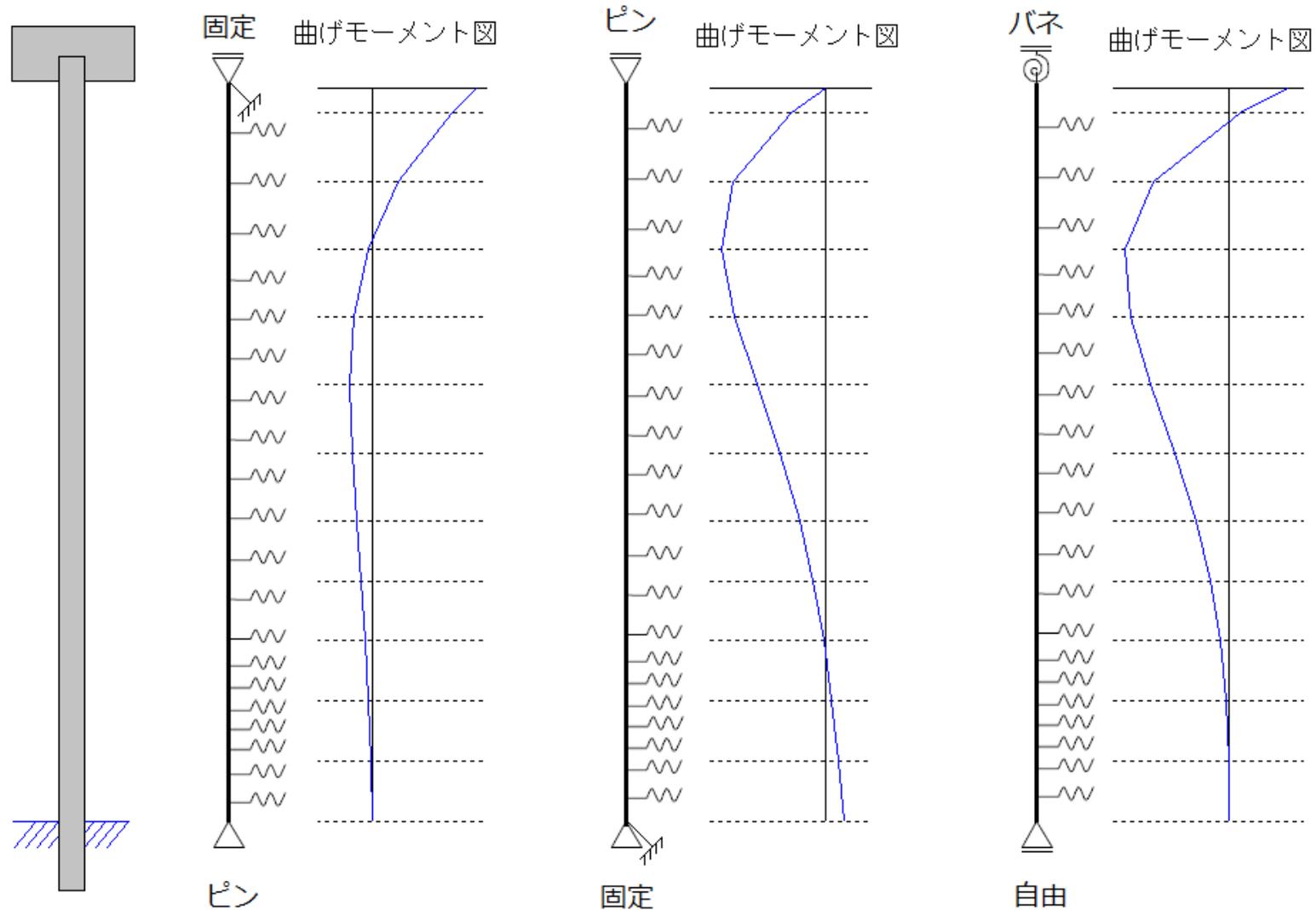


基礎梁と基礎の重なりは、通り心までの重なりを考慮し、基礎自重から省いています。



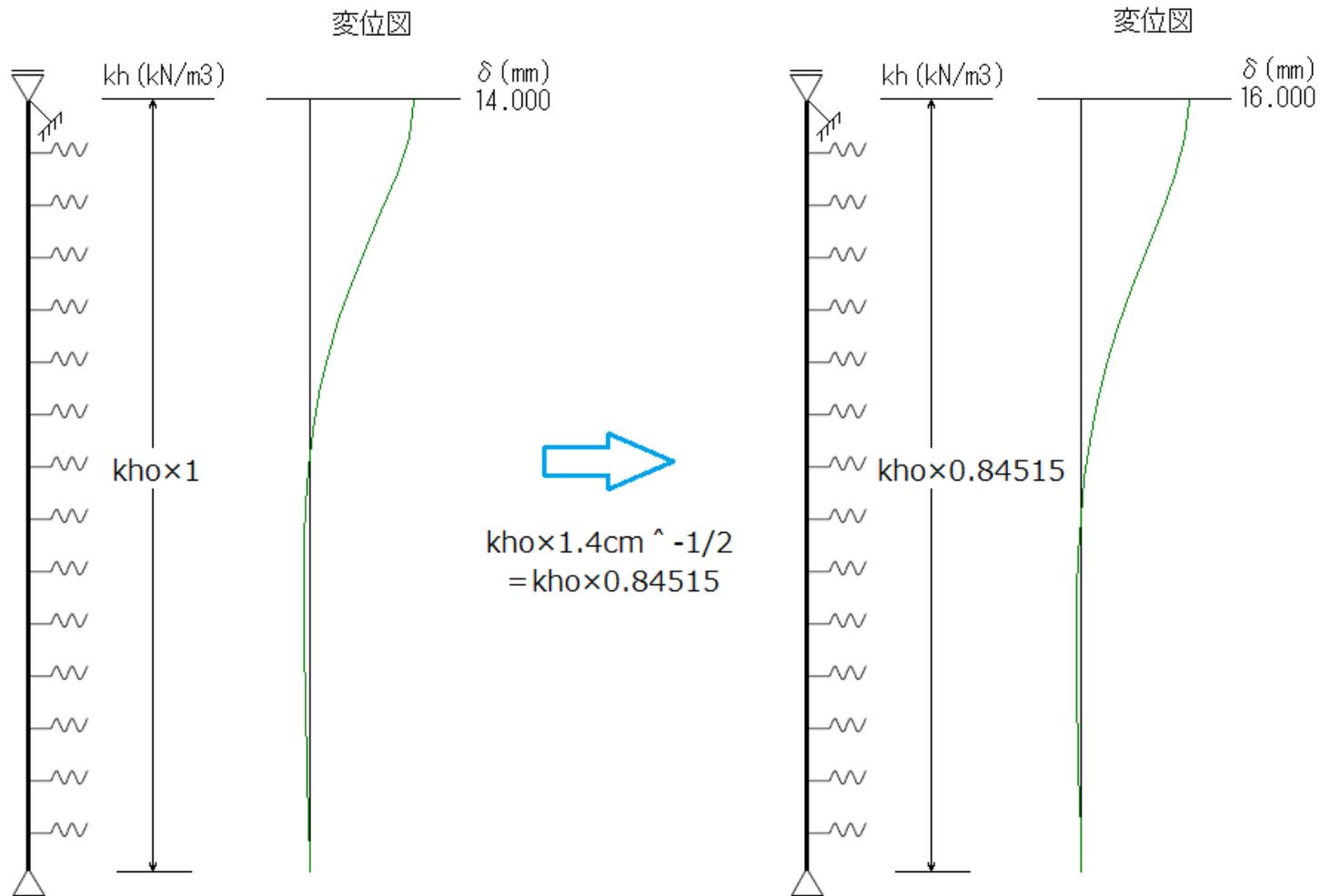
鉄骨造の場合、フーチング上面から基礎柱の上端まで (L) の重量は、基礎自重と別に考慮しています。

2.杭の水平抵抗と断面算定－4.杭頭固定度と杭先端の状態



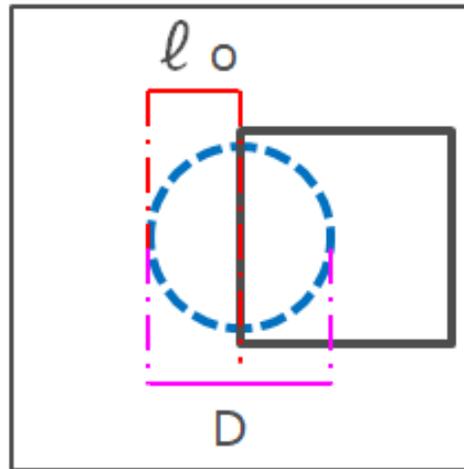
指定に応じた杭の解析モデルとします。

3.Kh分布と算定方法 – 5.khの非線形性

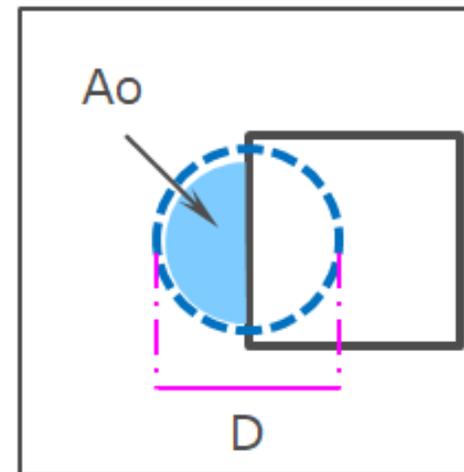


$kh = k_{ho} \times 1$ のとき、水平変位量(y)が1.4cmの場合、 $kh = k_{ho} \times 1.4 \text{ cm}^{-1/2} = k_{ho} \times 0.84515$ として再計算します。

せん断の検討



長さ比
 $\alpha = l_0 / D$



面積比
 $\alpha = A_0 / (D \times D \times \pi / 4)$

せん断力の補正（低減）方法（長さ比、面積比）を選択します。
指定に応じた α を杭反力に乗じて設計せん断力を計算します。

入力可能な本数とタイプ

4本タイプ			
正方形	長方形	X並び	Y並び
三角形X			
三角形Y			

赤枠が向きを指定することで、認識する杭配置タイプです。